

令和6年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名： デジタル推進課 シート No. : 116-1 作成日： 2025.5/7

① 総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後期基本計画	施策の大綱	VII行財政運営の効率化	事務事業の背景・目的	事務事業の目標
	施策の目標	1 市民満足度の高い行財政運営を進める	・「じょうそう未来創生プラン後期基本計画」において、人口減少に歯止めをかけ、安全・安心に暮らすためのデジタル化や、AI 技術を活用したまちづくりの推進が掲げられています。 ・これを踏まえ、DX 関連の分野別計画として、令和 6 年に「常総市 DX 推進計画」を策定し、利便性の高い行政サービスの提供と行政事務の効率化を実現するために、デジタル技術を活用した施策に取り組んでいます。 ・一方、社会のデジタル化が急速に進む中、デジタル化の恩恵を享受できる人と、享受できない人との「情報格差」が生じていることから、格差の解消に向けた取組も推進します。	・DX 推進計画に掲げられた施策の進捗を管理し、市民サービスの向上と行政事務の効率化を図ります。 ・デジタル技術を活用し、職員の年間勤務時間の削減（5 人分）を目指します。 ・情報システムの標準化について、令和 7 年度末までに、標準システムへの移行を完了します。 ・情報セキュリティに関する研修や監査を実施し、情報セキュリティに対する職員の意識向上を図ります。 ・スマートフォン教室の参加者満足度 80%を目指します。
	施策	1 行政運営		
	施策内容	デジタル技術を活用した行政事務の推進		
	その他、根拠法令及び分野別計画等	常総市 DX 推進計画（令和 6 年度～10 年度）		
事務事業名		情報化推進事業		

② アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）

③ インプット（投入）

アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R 6 予算額	R 6 決算額
活動名・事業名 （対象年）	R 6 活動・事業内容	指標（単位）	R 6 目標値	R 7 目標値		
			R 6 実績値	R 8 目標値		
情報化推進本部会議の開催 （R6・7・8）	市の情報化・DX 化の推進を図るために、庁内における意思決定を行う会議を適宜開催します。	—	—	—	0 千円	0 千円
			—	—		
DX 推進計画の推進 （R6・7・8）	DX 推進計画に掲げられた施策の進捗と課題を把握するために、担当課への調査を実施します。	調査実施回数 （回／年）	2	2	0 千円	0 千円
			2	2		
デジタル技術を活用した職員研修の実施 （R6・7・8）	RPA や AI-OCR 等の既存システムを活用した研修を実施し、行政事務の効率化を進めます。	研修受講者数（人）	5	10	210 千円	210 千円
			8	10		
情報システムの標準化 （R6・7）	地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づき、令和 7 年度末までに、対象業務（20 業務）を標準システムに移行します。	標準システム移行業務数（業務数）	16	20	65,835 千円	64,042 千円
			13	—		
情報セキュリティ研修の実施 （R6・7・8）	全職員を対象とした、情報セキュリティに関する e ラーニング研修を実施します。また、新規採用職員を対象とした研修も実施します。	全職員を対象とした研修の受講率（％）	100	100	90 千円	90 千円
			95	100		
シニアのためのスマートフォン教室の開催 （R6・7・8）	民間企業と連携し、シニア世代を対象としたスマートフォン教室を開催し、シニア世代のデジタル技術の利活用を支援します。	講座数（回）	20	20	0 千円	0 千円
			21	20		
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円

④ アウトカム（成果）

指標名	目標値	R 6 実績値
職員年間勤務時間削減	5 人分	3 人分
スマートフォン教室参加者の満足度	80%	98%

⑤ 点検・改善

業務の振り返り	改善の余地			
・DX 推進計画の進捗を把握するために、半期ごとに担当課とのヒアリングを実施してきましたが、令和 6 年度は情報システムの標準化を最優先としたため、ヒアリングは中止としました。 ・例年 3 名の会計年度任用職員が対応していたシステムの入力作業について、RPA を導入したことにより、今年度は不要になりました。 ・情報システム標準化について、標準化の対象となる 20 業務のうち 13 業務について、標準システムに移行しました。 ・シニアのためのスマートフォン教室を開催し、延べ 159 名の方が参加しました。参加者へ実施したアンケート結果では、98%の方から「満足した」との結果が得られました。	☐ コスト	☒ 活動	☐ 成果	☒ その他
	今後の方向性			
	・DX 推進計画について、令和 7 年度から担当課とのヒアリングを再開し、市民サービスの向上と行政事務の効率化に引き続き取り組みます。 ・RPA や AI-OCR 等の既存システムの有効活用を図り、行政事務の効率化を推進します。 ・国が進める情報システムの標準化について、令和 7 年度中に標準システムに移行します。 ・「情報格差」の解消を図るため、引き続きスマートフォン教室を開催します。			